あわれみ深い者　　マタイ５章７節

「あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。」

私たちは、今まで「4 つの幸い」について学んで来ました。「心の貧しい者」「悲しむ者」「柔和な者」「義に飢え渇く者」などです。
これらの幸いで、共通しているのは「消極的な受身の幸い」でした。

しかし、これから学ぶ４つは「積極的な肯定的な幸い」となります。
それらの４つの幸いですが、それはいくらでも努力して、積極的に伸ばして、前進させていかなければならない、私たちの目標でもあります。

―――　「あわれみ深い者」の３つの意味　―――

さて「あわれみ深い者」は、どの様な人を意味しているのでしょうか？　結論からいうと、①相手の立場に立ち、②相手の心を理解し、③相手と一つになって苦しむ人のことです。
日本語では普通、同情するとかいう時、自分は相手より一段高い所に立ったままで「お気の毒」と言っている様な場合が多いのです。その様な同情やあわれみならばいただいてもうれしくないですね。では「あわれみ深い者」について、3 つ学びましょう。

・第一は、まず相手の立場に立つ人のことです。
相手の立場に立つためには、まず自分の考え、立場、特権に固執することをやめなければなりません。イエス様は、どの様にされたのでしょうか。
（ピリピ 2:6、7）「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。」
イエス様は、神の栄光を全部すてて、人間として、この地上を歩まれました。

・第二は、相手の心を理解する人のことです。
これは、やさしい様でむずかしいのです。バークレーは言いました。「多くの人は自分の気持ちばかりを大切にして、ほかの人の気持ちを考えようとしない。」
ある王様が、こじきからボロ服を買って身にまとい、町をうろついてみました。しかし、民衆の生活はわかっても、民衆の心はわかりませんでした。彼は、こじきのかっこうをまねることはできても、こじきの心になることはできなかったのです。

・第三は、相手と一つになって苦しむ人のことです。
使徒パウロは言いました。「喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。」（ローマ 12:15）心の深い所で、相手と一つになることこそが、あわれみのため

に欠くことの出来ない絶対条件なのです。

　でも、現代社会の中で「あわれみ」を見つけることは困難です。それは、企業や社会の組織が巨大になり、しかも機能的になればなるほど、それを構成している人間はますます小さくなり非人間化されていきます。その結果、他の人々との血の通った暖かな人間的・人格的な交わりは失われてしまいました。同じ会社で働き同じ寮で生活していても、心から話し合える友を持つことがむずかしくなっているのです。学校の教室でも同じです。ですから今こそ、この様な社会や時代の中にあって、本当に人間らしく生きていくために、真実のあわれみが必要なのです。

―――　あわれみに欠けていた女教師　―――

　ある学校の女の先生が、自分の子を育てるのに、親としての強い愛情を持って、同時に又教師としての愛と配慮を持って育てようとしました。しかし結果はうまく行かなくで、返って子供は内に沈みがちになり、ファイトのない虚弱児になってしまいました。思い余って小学校の入学時に、その子を教育研究所へ行って調べてもらった所、原因がわかりました。子供に自信、それも愛されている自信が欠けているためと指摘されたそうです。そう言われてみると思い当たる節がないでもないことに気づきました。彼女は思い出しました。親の愛に教育者らしい愛まで加わって、強くなれとの一途から子供を突き放したり、独立心を養うのだと言っては独り歩きをさせたりしていたのです。研究所の先生から言われました。「たまには親ばかになって、子供の友になって、子供と二人三脚してあげたら。・・・」その後、彼女は子供と遊ぶことを始めました。子供のレベルに合わせたのですね。これがすなわち「あわれみ」ではないでしょうか。

　相手の弱さに応じて、自分の方が歩調を合わせてあげようという気持ち、これがあわれみです。このあわれみは、人間の生活の中で絶対に必要だと思うのですが・・・。

　このように、「あわれみ深い人」になるには、まず何よりも相手の身になって考え、行動することが必要ですね。主は、その様な積極的な生き方をあなたに望んでおられます。

（ローマ 12:15、16）「喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい。互いに一つ心になり・・・身分の低い人たちと交わりなさい。」

（第一コリント 9:19～22）「私は・・すべての人の奴隷になりました。ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。・・・弱い人たちには、弱い者になりました。弱い人たちを獲得するためです。・・・」

―――　試験に落ちたら、カメラ買ってあげよう　―――

　ある父親が自分の子供の頃の話をしました。子供が中学の入学試験を受けて、いよいよ合格発表の日の朝、父が急に何か言い出しました。「お前、今日落ちたら、前から欲しがっていたカメラを買ってあげよう」「自分のせがれが落ちて欲しいのかな、変なおやじだ」と思いました。しかし、今度は何十年も経って、自分が親になり、自分の子供が入学試験を受ける頃になると、しみじみとわかりました「なるほどあの時おやじも、前の晩は寝付かれなか

んだな、おやじも息子が落ちたら、あわれな我が子をどうして元気づけようかと、苦しんでいたんだな。」そして「おやじ、味な事やりおるわい」と思ったそうです。

我が子が落ちるのがめでたいのではありません。その時は、親も悲しいのですが、それ以上に、本人の小さな胸の悲しみを思うと、何でもしたくなるこの心、自分ではなく、悲しい当人の身になって考えてあげる心・・・。その心が、人をあわれみ深くするのではないでしょうか。共に苦しんでくれる人、悲しんでくれる人がいる人は幸いですね。

――― あわれみの真の意味 ―――

ロイドジョンズ博士は**あわれみの真の意味**は、①同情心と、更に②その苦しみを除いてあげたいという願いだと言いました。言い換えると**あわれみとは**、他人の悲しみや苦しみに対する①内的同情心と②外的行動であると言いました。

さて、素晴らしい、あわれみの行動をした人のお話です。

――― 良きサマリア人のたとえ話 ―――

あわれみ深いイエス様のお話を紹介しましょう。良きサマリア人のたとえ話です。

（ルカ 10:30～35 節、読む）エルサレムからエリコへの街道で、ある人が強盗に襲われ瀕死の重傷を負い倒れていました。たまたま、祭司、レビ人が通りかかりました。彼らはこの倒れている人を見て、気の毒に思い、同情したとは思いますが、それ以上何もしませんでした。しかし、最後に通りかかったのが皆から嫌われているサマリア人でした。彼は、この傷ついた旅人を可哀そうに思い、道を横切って彼の所に行き、傷に包帯を巻き、宿屋に連れて行き、更に必要な費用までも用意して与えました。これらは、すべて「あわれみ深い者」たちの行為です。ただ可哀そうに思うだけではありません。「あわれみ」とは、中途半端に出来ない行為であり、労苦を惜しまない行為であり、その人のために自分に出来る最善を尽くす行為なのです。

さて、このサマリア人にもまさる、「あわれみ深いお方」はイエス様です。

神様は、罪人である私たちの哀れな状態をご覧になられました。そして、そのひとり子を、この世界に遣わされました。御子はこの世に来てくださいました。それは、神様に深いあわれみの心があったからです。主は、サタンに支配されている私たちの苦しみを味わわれました。私たちを心からあわれんで下さいました。そして、苦しんでいる人々に心痛めたイエス様は、行動を起こされました。こうして、十字架上で私たちのために、ご自分が死ぬと言う行為を通して、罪の問題を完全に解決して下さったのでした。

――― イエス様、そしてステパノの祈り ―――

主イエス様は十字架上で、ご自分を十字架に付けた人々を見て、父に叫びました。

（ルカ 23:34）「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」この叫びは祈りです。イエス様は次の様に祈られたのです。「わたしを十字

架に付けたのはこの人々ではありません、サタンです。むしろ群衆はあわれな被害者です。この人々は罪に支配されています。ですから父よ。彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているかが分かっていないのです。」

あの、殉教者**ステパノ**も又、イエス様と、同じ心を持っていました。人々が彼を殺そうとして石を投げている時、彼は天の父に向って叫び、祈りました。

（使徒 7:60）「・・ひざまずいて大声で叫んだ。『主よ、この罪を彼らに負わせないでください。』こう言って、彼は眠りについた。」

ステパノの祈りはこうです。「神様、彼らは狂っています。彼らは罪のために狂っているのです。彼らは、サタンによって支配され盲目にされているので、私があなたのしもべである事や、今自分たちが何をしているのかに気づいていないのです。ですから、この罪を彼らに負わせないで下さい。彼らに責任はありません。」ステパノは自分を殺そうとしている彼らに同情し、彼らに対してあわれむ心を持ちました。

これが、真にキリスト者の目標とする心です。ですから私たちも、罪の奴隷となっているすべての人に対して、こころからあわれみ悲しみの気持ちを抱くべきです。これが、人々に対する私たちの態度でなくてはなりません。　　イエス様のことばです。

「あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けるからです。」（マタイ 5:7）

――― その人たちはあわれみを受けるからです ―――

最後に、**あわれみに生きる者の幸い**について学びましょう。イエス様は言いました。「その人たちはあわれみを受けるからです。」　ここには、二重の約束があります。

・第 1 は、地上においては、この世の人々からあわれみを受ける幸いです。

神学校で、伝道旅行した時の事です。一週間、小さな教会で奉仕をしました。トラクト配布、集会の準備、司会、音楽、メッセージ頑張りました。反省会の時、一人の学生が証をしました。その内容は今までどの様な事を、自分たちがしてきたかではなく、むしろ教会の方々が宿を提供し、食事の世話をし、親切に持てなして下さったことへの心からの感謝でした。彼はあわれみを受ける幸いを味わったのです。

・第 2 は、天の御国で、神様から受けるあわれみの幸いです。

この幸いは、地上のどんなあわれみにもまして、純粋で真実なものです。

イエス様は、金持ちと貧乏人ラザロとのお話の中で言われました。（ルカ 16:25）「子よ。思い出しなさい。お前は生きている間、良いものを受け、ラザロは・・悪い物を受けた。しかし今は、彼はここで慰められ、おまえは苦しみもだえている。」

私たちの究極的な希望は、天の御国において、神様からいただくあわれみです。その希望の故に、私たちこの地上で、勇気をもって、あわれみ深く生きることができます。

人々に対して、あわれみの心を持ち続けることが出来ます。

私たち、御国で受ける幸いの故に、この地上であわれみの中に生きる者となりましょう！